

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016 年 3 月 18 日

言語社会専攻長
 日本語・日本文化専攻長 殿
 To Dean of Studies in Language and Society
 To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパⅡ講座 准教授
氏名 Name	石黒 暢
専門分野 Academic Field	社会福祉学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	北欧と日本の高齢者介護に関する実証的研究
<p>科研採択課題「北欧の在宅・地域ケアに繋がる生活世界アプローチの思想的基盤の解明」(基盤 (B), 研究代表者: 浜渦辰二・大阪大学大学院文学研究科教授) では、研究分担者として、北欧福祉国家の思想的背景を高齢者介護の実践から検討・分析する研究を行い、日本保健医療社会学会第 41 回大会 (2015 年 05 月) におけるラウンドテーブルディスカッション「これからの在宅ケアを考える～北欧ケアの思想的基盤を手がかりにして～」において「要介護高齢者の暮らしを支える環境づくり～デンマークの取り組みから「ホーム」を考える」という研究報告を行った。また、2016 年 2 月 20 日には公開ラウンドテーブル「北欧ケアの思想的基盤を掘り起こす」において、「デンマークにおけるホームヘルプサービスの歴史的展開－普遍主義の観点から－」という研究報告を行った。2016 年 3 月にはスウェーデンのストックホルム大学とベクショー市役所を訪問し、ケアワーク研究のさらなる展開に向けて研究者や高齢者介護関係者と協議を行った。</p> <p>研究分担者をつとめる大阪大学国際共同研究促進プログラムの採択課題「超高齢期高齢者のサクセスフルエイジングを支援する介護福祉サービスの開発に向けた認知脳科学的・老年社会学的研究」(研究代表者: 荻阪満里子・大阪大学大学院人間科学研究科教授) においては、超高齢期高齢者の健全なこころの維持を促す介護サービスを考案するための基礎的研究を行い、ドイツの介護ロボット研究ラボラトリーを訪問し、今後の共同研究の方向性について協議を行った。Frankfurt University of Applied Sciences との学術交流協定の締結に向けても今後協議を続けていくことが確認された。</p> <p>2016 年 2 月にはデンマークの自治体、高齢者介護施設等を訪問し、高齢者介護への介護ロボット導入について調査を行った。</p> <p>研究分担者をつとめる科研採択課題「ソーシャルワークの実践理論形成に関する実証的研究: 事例を通じた地域・国際比較研究」(基盤 (B), 研究代表者: 上野谷加代子・同志社大学社会学部教授) においては、滋賀県と堺市の地域福祉実践の調査を行い、参加と協働による生活課題の解決を目指す実践の分析を行った。</p> <p>2015 年 9 月に開催された 13th Annual ESPAnet conference (University of Southern Denmark) において下記の研究報告を行った。</p> <p>Nobu Ishiguro & Yayoi Saito “Care Relations in Eldercare in Japan and Denmark: Different Consequences for Marketisation?”</p> <p>また、同月に開催された Eldercare Workshop at Vechta University (ドイツ) において下記の研究報告を行った。</p>	

Hildegard Theobald, Yayoi Saito, Nobu Ishiguro “Comparative Eldercare from Care Workers Perspective: Germany, Japan and Sweden”

ビアギト・マスン&ピーダ・オーレスン編で執筆されたデンマーク語の文献の翻訳を完成させ、『ガンと向き合う力～25人のデンマーク人がガン体験を語る』（新評論）を2015年07月に出版した。

また、2016年度に出版予定である『世界の幼児教育』の第3章「デンマーク王国— 保護者との協働による普遍的な保育サービス —」を執筆した。